

プログラム

ベートーヴェンの代表作を4曲演奏し、その曲の背景をお芝居で紹介します。

- (1) 「スプリング (春)」 バイオリンソナタ 第1楽章
- (2) 「悲愴」 ピアノソナタ 第1楽章
- (3) 「テンペスト」 ピアノソナタ 第3楽章
- (4) 「クロイチェル」 バイオリンソナタ 第3楽章

その他、交響曲第5番「運命」、交響曲第9番「歓喜の歌」、「エリーゼのために」、「月光」ピアノソナタ第1楽章、「悲愴」ピアノソナタ第2楽章(以上はベートーヴェン)、「アイネクライネナハトムジーク」(モーツァルト)、「セレナーデ」(ハイドン)など

～みなさんでうたいましょう～

第9番交響曲「歓喜の歌」より 訳：なかにし礼

愛こそ歓喜に 導く光 さえぎる苦難を 越えて進まん
歓喜の頂き 踏みしめた時 我らは兄弟 世界は一つ

気高き乙女を 勝ち得たものよ 手をとり歓呼の 叫びをあげよ
人間一人で 何が出来よう 愛なき孤独の 人は立ち去れ

あいこそかんにきに みちびくひかり さえぎるくなんを こえてすすまん
かんにきのいただき ふみしめたとき われらはきょうだい せかいはいひとつ

きだかきおとめを 勝ちえたものよ てをとりかんの さけびをあげよ
にんげんひとりて なにができよう あいなきこどくの ひととはちされ

お芝居と音楽でおくる「ベートーヴェン物語」へお越し下さりありがとうございます。

今日のプログラムは、ベートーヴェンの作品の中でも有名な「スプリング (春)」バイオリンソナタから始まります。ベートーヴェンはこの曲を作曲した30歳前後から、難聴の症状が悪化していきます。

音楽家として焦り、悲嘆に暮れ、難聴を悟られないように人を避けた生活を始めます。この時期のベートーヴェンの代表作品が、「悲愴」ピアノソナタです。

難聴になったことで、音楽家として、死ななければならないと思えるほどの苦悩を味わい、遺書も残しています。この時期の代表作品が、「テンペスト」ピアノソナタです。

ベートーヴェンは遺書を書くうちに、自分の心の中にある音楽を世に出すという使命がまだ果たされていないことに気付きます。その使命を果たすことに生きる希望を見出した頃のベートーヴェンの代表作品が、「クロイチェル」バイオリンソナタです。

ベートーヴェンの音楽は、彼の起伏の激しい心情がそのまま反映されたような、とても人間味のあるものです。苦しみや悲しみの経験は、人の心に訴えかける生々しい音楽へと姿をかえて、後世にのこされました。人間愛に溢れた彼の音楽は、演奏する者、聴く者に寄り添い、強く励まします。

第九番交響曲の「歓喜の歌」の中に込められた、「何があっても力強く、皆と手を取り合って生きていこう」というメッセージはまさに、彼が音楽を通して私たちに伝えたかったメッセージです。

これから新しい未来に向け歩いていく子供たちには、ベートーヴェンのメッセージを、幼い素直な心で受け取って、何か感じてもらえたらいいと思います。大人の方たちも、困難にぶつかったり、ぶつかっている人に遭遇したときに、ベートーヴェンの「みんなの手を取り合って生きていこう」という、あたたかいメッセージを思い出してもらえたら嬉しいです。

それでは、どうぞゆっくり最後までお楽しみ下さい。

「みむみむの森」主宰 三村真理